

## 老年者胃・十二指腸潰瘍の臨床的検討

張 泰昌, 星加 和徳, 木原 疆

昭和61年1月より12月までの1年間に初回内視鏡検査で胃・十二指腸潰瘍と診断された325例のうち60歳以上の老年者は118例, 36.3%であり, 潰瘍別に老年者の占める率をみると胃潰瘍では43.5%, 十二指腸潰瘍では23.6%, 胃・十二指腸併存潰瘍では34.6%であった。

老年者の胃・十二指腸潰瘍のなかで胃潰瘍は71.2%で十二指腸潰瘍は21.5%であり, 若年者, 壮年者に比べて胃潰瘍の占める割合が明らかに高く, 高齢になるにつれてこの傾向が大であった。胃・十二指腸併存潰瘍では, 各年齢層で明らかな差はなかった。

老年者胃潰瘍の存在部位は, 胃体部, 特に胃体上部に多かったが, 十二指腸潰瘍の存在部位では各年齢層による差は認められなかった。

老年者では, 自覚症状がしばしば認められなく, 高齢になるにつれて潰瘍出血例は頻度を増していた。  
(昭和62年9月4日採用)

### Clinical Features of Gastric and Duodenal Ulcers in Elderly Patients

Taichang Zhang, Kazunori Hoshika and Tsuyoshi Kihara

Among 325 patients diagnosed by us to be suffering from peptic ulcers after an initial gastrofiberscopic examination in 1 year since January 1986, the number of patients classified into the elderly group over 60 years old was 118 (36.3%).

Gastric ulcers were found in 71.2% of the patients in the elderly group and duodenal ulcers in 21.2%. This incidence of gastric ulcers in the elderly group was significantly higher than that in the younger group, under 39 years old, and that in the middle aged group under 59 years old but over 40 years old.

In the elderly group, gastric ulcers were located very frequently on the upper parts of the stomach. On the other hand, no specific features were found concerning the location of duodenal ulcers.

The frequency of complaints and clinical symptoms in the elderly patients with digestive ulcers was low. However, the percentage of patients with bleeding over the age of 60 was very high. (Accepted on September 4, 1987) *Kawasaki Igakkaishi* 14(1): 84-89, 1988

**Key Words** ① Gastric ulcer ② Duodenal ulcer ③ Elderly patient

## はじめに

近年、平均寿命の延長による老年人口の増加に伴い、高齢者の胃・十二指腸潰瘍が増加しており、また高齢者の初発潰瘍も増加しているといわれている。そこで、60歳以上の年代を老年者として、初回内視鏡検査時点で診断された老年者の胃・十二指腸潰瘍について、若年者のそれらと比較してその特徴、問題点を検討した。

## 対 象

川崎医科大学附属病院で昭和61年1月より12月までの1年間に、初回内視鏡検査で胃・十二指腸潰瘍と診断されたものは325例であり、その全症例の性別、年齢分布はTable 1のごとくで、50歳代にピークをもっていた。このうち60歳以上の老年者は118例で、全例の36.3%であり、性別では男性76例、女性42例で、男女比は1.8であった。

Table 1. Age and sex distribution of digestive ulcers under the first endoscopic examination

Sex \ Age yr.	~19	~29	~39	~49	~59	~69	~79	~89	Total
M	7 2.4%	15 4.6%	36 11.1%	44 13.5%	56 17.2%	42 12.9%	29 8.9%	5 1.5%	234 72%
F	0 0%	2 0.6%	12 3.7%	15 4.6%	20 6.2%	27 8.3%	15 4.6%	0 0%	91 28%
Total	7 2.4%	17 5.2%	48 14.8%	59 18.1%	76 23.4%	69 21.2%	44 13.5%	5 1.5%	325 100%

Table 2. Number of patients classified by age and location of digestive ulcers

Ulcer groups \ Age	GU	DU	Coexistent ulcers	Total
~39 yr.	29 40.3%	40 55.6%	3 4.2%	72
40~59 yr.	80 59.3%	41 30.4%	14 10.3%	135
60~ yr.	84 71.2%	25 21.2%	9 7.6%	118
Total	193 59.3%	106 32.6%	26 8.0%	325

## 成 績

## 1. 年代別胃・十二指腸潰瘍の比率

各年齢層別に胃潰瘍 (GU), 十二指腸潰瘍 (DU), 胃・十二指腸潰瘍併存潰瘍 (coexistent ulcers) とに分けて、その比率を比較した。Table 2のごとく、若年者、壮年者、老年者の潰瘍別頻度をみると、若年者ではDUの比率が高い傾向を示すが、老年者では、胃潰瘍が圧倒的に多く、壮年者では両群の中間の値を示していた。

## 2. 潰瘍発生個数

潰瘍の単発、多発の比率はTable 3のごとく各年齢層別に比較しても差は認められなかった。

## 3. 潰瘍の病期

胃・十二指腸潰瘍の病期を活動期、治癒期、瘢痕期に分けて検討すると、胃潰瘍ではTable 4のごとく、若年者で活動期36.3%、治癒期36.4%、瘢痕期27.2%、壮年者で活動期23.1%、

Table 3. The ratio of single ulcers and multiple ulcers in the aged groups

Ulcer groups \ Age	GU		DU	
	Single	Multiple	Single	Multiple
~39 yr.	24 82.8%	5 17.2%	37 92.5%	3 7.5%
40~59 yr.	58 72.5%	22 27.5%	35 85.4%	6 14.6%
60~ yr.	67 79.8%	17 20.2%	22 88.0%	3 12.0%
Total	149 77.2%	44 22.8%	94 88.7%	12 11.3%

治癒期 45.4%, 癒痕期 31.4%, 老年者で活動期 27.6%, 治癒期 43.8%, 癒痕期 28.6% で、若年者に活動期が多く、壮年者、老年者では癒痕的なものがやや多かった。十二指腸潰瘍では **Table 5** のごとく、若年者で活動期 19.6%,

治癒期 41.3%, 癒痕期 39.1%, 壮年者で活動期 17.2%, 治癒期 40.6%, 癒痕期 42.2%, 老年者で活動期 27.3%, 治癒期 45.5%, 癒痕期 27.3% であった。

**Table 4.** Stages of gastric ulcers in the patients

Stage Age	Active stage		Healing stage		Scar	
	A <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>	S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>
~39 yr.	2 4.5%	14 31.8%	9 20.5%	7 15.9%	8 18.2%	4 9.0%
40~59 yr.	4 3.3%	24 19.8%	30 24.7%	25 20.7%	22 18.2%	16 13.2%
60~ yr.	8 7.1%	23 20.5%	31 27.7%	18 16.1%	17 15.2%	15 13.4%
Total	14 5.1%	61 22.0%	70 25.3%	50 18.0%	47 17.0%	35 12.6%

**Table 5.** Stages of duodenal ulcers in the patients

Stage Age	Active stage		Healing stage		Scar	
	A <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	H <sub>1</sub>	H <sub>2</sub>	S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>
~39 yr.	1 2.2%	8 17.4%	14 30.4%	5 10.9%	11 23.9%	7 15.2%
40~59 yr.	2 3.1%	9 14.1%	15 23.4%	11 17.2%	19 29.7%	8 12.5%
60~ yr.	2 6.1%	7 21.2%	9 27.3%	6 18.2%	7 21.2%	2 6.1%
Total	5 3.5%	24 16.8%	38 26.6%	22 15.4%	37 25.9%	17 11.9%

**Table 6.** Relationship between the localization of gastric ulcer and age

Age yr.	~39	40~59	60~	Total
Upper body	1 2.3%	16 13.2%	25 22.3%	42 15.2%
Middle body	7 15.9%	23 19.0%	24 21.4%	54 19.5%
Lower body	9 20.5%	20 16.5%	17 15.2%	46 16.6%
Angular region	15 34.1%	47 38.8%	24 21.4%	86 31.0%
Antrum	12 27.3%	15 12.4%	22 19.6%	49 17.7%
Total	44	121	112	277

#### 4. 潰瘍の存在部

胃・十二指腸潰瘍の存在部位について年齢層別に比較検討してみた。

**Table 6** のごとく全胃潰瘍 277 個につき各区域での頻度を若年者、壮年者、老年者ごとに百分率で表してみると、若年者と壮年者では胃角部が圧倒的に多かったが、老年者では胃体上部に一番多かった。十二指腸潰瘍の存在部位は、**Table 7** のごとく年齢層別の差は少なく、主に球部前壁に集中していた。

#### 5. 潰瘍の大きさ

高齢者の胃潰瘍は、一般に若年者、壮年者の胃潰瘍に比べて大きいものが多いとされている。**Table 8** は初回内視鏡検査で潰瘍癒痕を除外した胃潰瘍の大きさを各年齢層別に比較したものである。長径 16 mm 以上のものは、若年者で 6.3%, 壮年者 8.4%, 老年者 10.0% であり、老年者に少し多い傾向があった。

十二指腸潰瘍で 16 mm 以上のものは、**Table 9** のごとく老年者及

**Table 7.** Relationship between the localization of duodenal ulcer and age

Age yr.	~39	40~59	60~	Total
Anterior wall	30 65.2%	49 76.6%	20 60.6%	99 69.2%
Lesser curvature	4 8.7%	4 6.2%	5 15.1%	13 9.1%
Posterior wall	7 15.2%	8 12.5%	6 18.2%	21 14.7%
Greater curvature	5 10.9%	3 4.7%	2 6.1%	10 7.0%
Total	46	64	33	143

び壮年者でそれぞれ1例ずつであった。

### 6. 潰瘍症例の臨床症状

**Table 10** のごとく高齢者潰瘍の自覚症状は一般に軽微で、若年者、壮年者に比べ特有な心窩部痛などいわゆる潰瘍痛を訴える例は少ないが、顕性出血は若年者、壮年者より多かった。

**Table 8.** Relationship between the size of gastric ulcer and age

Age	Size	≥16mm	6~15mm	5mm≥	Total
~39 yr.		2 6.3%	9 28.1%	21 65.6%	32
40~59 yr.		7 8.4%	22 26.5%	54 65.1%	83
60~ yr.		8 10.0%	25 31.3%	47 58.8%	80
Total		17 8.7%	56 28.7%	122 62.6%	195

**Table 9.** Relationship between the size of duodenal ulcer and age

Age	Size	≥16mm	6~15mm	5mm≥	Total
~39 yr.		0 0%	9 32.1%	19 67.9%	28
40~59 yr.		1 2.7%	15 40.5%	21 56.8%	37
60~ yr.		1 4.2%	4 16.7%	19 79.1%	24
Total		2 2.2%	28 31.5%	59 66.3%	89

**Table 10.** Complaints and clinical symptoms of the patients with digestive ulcers

Chief complaint	Age, yr.		
	~39	40~59	60~
Abdominal pain	60 83.3%	96 71.1%	63 53.4%
Heart burn	8 11.1%	14 10.4%	15 12.7%
Anorexia	31 43.1%	68 50.4%	65 55.1%
Nausea & vomiting	15 20.8%	79 58.6%	25 21.1%
Hematemesis & melena	6 8.3%	11 8.1%	13 11.1%

## 考 察

老年者胃・十二指腸潰瘍は、近年老人々口の増加とともにその頻度が増加する傾向が目立っている。並木<sup>1)</sup>は1958年以降の20年間で5年ごとでみると胃潰瘍例のうち老年者例は15%、18%、20%、23%と時代とともに増加していると報告している。白壁ら<sup>2)</sup>によると、内視鏡818例のうち老年者は21.9%であり、大島<sup>3)</sup>によると、内視鏡的に診断した胃潰瘍で初診時60歳以上の頻度は27.4%で十二指腸潰瘍では9.9%であった。浅倉ら<sup>4)</sup>は、初回内視鏡検査時における老年者胃・十二指腸潰瘍の頻度は20.3%であり、潰瘍別では、胃潰瘍1952例中27.4%、十二指腸潰瘍1234例中9.5%、胃・十二指腸併存潰瘍250例中18.8%を占めていると報告している。著者らの1年間の検討では、初回内視鏡検査時における老年者胃・十二指腸潰瘍の頻度は、胃潰瘍193例中43.5%、十二指腸潰瘍106例中23.6%、胃・十二指腸併存潰瘍26例中34.6%であった。老年者潰瘍では胃潰瘍が多く、年齢順に胃潰瘍と十二指腸潰瘍の比率をみると30歳代以下では十二指腸潰瘍の方が多いが、40歳代になると、これが逆転して胃潰瘍が多くなり、年代とともにこの傾向が顕著となる。浅倉ら<sup>4)</sup>は、若年者では胃潰瘍が44.3%で十二指腸潰瘍は48.7%、壮年者では胃潰瘍は57.6%で十二指腸潰瘍が34.6%、老年者では胃潰瘍が76.5%で十二指腸潰瘍は16.8%であったと述べている。著者らの集計では、若年者では胃潰瘍が40.3%で十二指腸潰瘍は55.6%、壮年者では胃潰瘍が59.3%で十二指腸潰瘍は30.4%、老年者では胃潰瘍が84%で十二指腸潰瘍は25%であった。

胃・十二指腸併存潰瘍の頻度は壮年者に多く、著者らの検討では、若年者では4.2%、壮年者では10.3%、老年者では7.6%であった。

胃潰瘍は、老人になるにしたがって胃体部に発生する頻度が高くなるとされ、並木<sup>1)</sup>は56%、白壁ら<sup>2)</sup>は83.3%、三橋ら<sup>5)</sup>は70%、浅倉ら<sup>4)</sup>は55.6%が胃体部に発生したと報告し

ている。著者らの検討では、癒痕を含めた潰瘍でみると、胃体部全体では58.9%であり、胃体部を細分化したものでは、胃体上部が22.3%、胃体中部は21.4%、胃体下部が15.2%であった。

老人の胃潰瘍の発生が胃体部の高位に頻度が高い理由としては、胃潰瘍の発生に関する大井の二重規制説をふまえ、胃底腺・幽門腺境界の高さが老人になるにつれて、萎縮性変化の進展などに伴い高位に移るためと解釈されている。確かにそれも一つの理由であるが、胃液に対する抵抗性が同じ胃粘膜でも幽門部より胃体上部と高位の方が強いと言われているのに、老人においては潰瘍が胃体部に好発するという事実と老人では一般に胃液酸度の低いものが多い点などを考え合わせると、老人の胃潰瘍の発生には、胃液という攻撃因子の影響よりもむしろ胃粘膜局所の抵抗力の減弱、特にそれにあずかる胃血管の動脈硬化性変化が重要な意味を持つと考える方が妥当であると考えられる。

大きさの点では、高齢者の胃潰瘍は、若年者、壮年者の潰瘍に比べて大きいものが多いとされている。渡辺ら<sup>6)</sup>は、長径16mm以上の大きさの潰瘍の占める割合は、若年者では15.9%、壮年者では24.2%、60歳以上の老年者では30.8%であったと報告している。著者らの集計では、長径16mm以上のものは、若年者では6.2%、壮年者では8.4%、老年者では10.0%であり、老年者にやや多かった。高齢者に大きい潰瘍の発生する理由としては、老年性変化による胃粘膜の萎縮性変化と胃動脈の硬化性変化などが胃粘膜の抵抗を著しく減弱することが大きな原因であると説明されている。十二指腸潰瘍では、長径16mm以上の大きさの潰瘍の頻度は、若年者、壮年者と老年者で差がなかった。

老年者十二指腸潰瘍の存在部位について、平塚ら<sup>7)</sup>の報告では、前壁が60%、後壁が20%、小彎が17.5%、大彎が2.5%であり、浅倉ら<sup>4)</sup>の報告では前壁が55.9%、後壁が29.4%、小彎が13.9%、大彎が0.8%であった。著者らの検討でも球部前壁が60.6%、後壁が18.2%、

小彎が15.1%、大彎が6.1%で、若年、壮年者と比べて老年者十二指腸潰瘍の存在部位と明らかな差はなかった。

老年者の胃・十二指腸潰瘍の自覚症状は一般に軽微で、若年者、壮年者の潰瘍に比べ、特有な心窩部痛などいわゆる潰瘍痛を訴える例は少なく、むしろ心窩部不快感や腹部膨満感、胸焼けなどの胃部の不定症状を訴える例が多いとされている。なかには、まったく自覚症状なく集団検診で偶然に発見されたものもある。中村ら<sup>8)</sup>の報告では、老年者でまったく自覚症状のないのは13%であり、福地ら<sup>9)</sup>は7.1%であったと報告している。また、吐・下血を来して初めて来院する症例も少なくない。若年者や壮年者にみられる食事の摂取と心窩部痛の関係についても、老年者でははっきりしないと言われている。渡辺ら<sup>6)</sup>の報告では、心窩部痛を訴えた者は39歳以下では87.8%で、40から59歳では78.6%で、60歳以上では54.2%であった。著者らの検討でも、若年者の心窩部痛は83.3%に、壮年者でも71.1%に認められるのに対し、老年者では53.4%しか認められず、諸家の報告と一致していた。したがって、高齢者の胃潰瘍を診断する場合、自覚症状のみから潰瘍の存在の有無や重症度を推定することは難しいことに注意する必要がある。

老年者では、潰瘍からの出血例が多く、一般的には潰瘍の10~20%に顕出血をみると言われている。<sup>4)</sup>長町ら<sup>10)</sup>は、60歳以上の胃潰瘍出血は21.5%に、並木<sup>1)</sup>は29%に、川上ら<sup>11)</sup>は胃・十二指腸両潰瘍で20%弱に顕出血をみると報告している。著者らの検討でも、胃・十二指腸潰瘍からの出血は、若年者、壮年者では6%、11%であるのに対し、老年者では13.1%と多かった。

## 結 語

昭和61年1月より12月までの1年間に初回内視鏡検査で胃・十二指腸潰瘍と診断された325例を集計し、60歳以上の老年者潰瘍について検討した。老年者の胃・十二指腸潰瘍では、若

年者，壯年者に比べて胃潰瘍の占める割合が明らかに高かった。老年者胃潰瘍の存在部位は，胃体部，特に胃体上部に多かった。老年者では，

自覚症状がしばしば認められず，高齢になるにつれて潰瘍出血例は頻度を増していた。

## 文 献

- 1) 並木正義：臨床からみた老人の胃疾患—胃潰瘍。胃と腸 12：599—604，1977
- 2) 白壁彦夫，濱田 勉，丸山俊秀，加治文也，三浦まり子，浦野 薫，Ilkay Simsek：老年者消化性潰瘍の診断。X線診断。Geriat. Med. 21：559—564，1983
- 3) 大島 博：老年者胃・十二指腸潰瘍の特徴と問題点。Medicina 20：2720—2721，1983
- 4) 浅倉禮治，佐藤明子，王 紹英，平井信二，小島俊也，横堀 孝，荒木俊二，前田正之，竹内俊二，藤間利之，鍋谷重吉，織田 俊，瀬戸律治，崎田隆夫：初回内視鏡検査時点における老年者の胃・十二指腸潰瘍。消内視進歩 26：13—19，1985
- 5) 三橋利温，西元寺克禮，岡部治弥：胃・十二指腸併存潰瘍の再発。Geriat. Med. 21：641—646，1983
- 6) 渡辺 昂，松坂 聡，大矢智恵，山本敦子，高橋文恵，五味聖二，山田 隆，安井 譲，金重 輝，三石 卓，神戸成美，佐々木坦，若林伸幸，成田淳夫，常岡健二：高齢者胃潰瘍の特殊性についての検討。消内視進歩 26：26—31，1985
- 7) 平塚秀雄，上田 治，白石史典，横山卓司：老年者消化性潰瘍の診断。内視鏡診断。Geriat. Med. 21：567—573，1983
- 8) 中村卓次，山城守也，鈴木雄次郎：高齢者の胃潰瘍。外診 21：679—690，1969
- 9) 福地創太郎，松本道也，斉藤 靖：老年者の胃疾患—とくに老年者胃潰瘍の特異性とIIa 様境界領域病変について。Geriat. Med. 9：479—491，1971
- 10) 長町幸雄，中村卓次：高齢者胃・十二指腸潰瘍の外科的治療の問題点。外診 25：697—704，1983
- 11) 川上 澄，松川昌勝，刈谷克俊，森山祐三，岩根 覚：老年者消化性潰瘍出血の非観血的療法。Geriat. Med. 21：625—632，1983